

第2章 地区計画

1 天応地区

【天応地区の概況】

天応地区は、呉市中心部と広島市との間に位置する呉市の西の玄関口であり、自然豊かな地域です。

地区内の主要幹線として、呉市と広島市を結ぶ国道31号が横断しており、この国道31号と並走する広島呉道路（クリアライン）の天応インターチェンジが設置されています。

さらに、JR呉線の天応駅及び呉ポートピア駅の2駅が設置されているほか、海路においても天応切串航路で江田島市と結ばれるなど、天応地区は交通の利便性に恵まれた地域となっています。また、地区内に立地する呉ポートピアパークは、呉市を代表する公園の一つとして、市内外から多くの人々が訪れる憩いの場となっています。



【天応地区の被害状況等】

天応地区では、平成30年7月豪雨により大屋大川や背戸ノ川の上流域で発生した多数の斜面崩壊・土石流による直接的な被害に加え、下流域では上流域から流出した土砂が河道を埋塞したことにより、土砂・洪水氾濫が発生し、大量の土砂が道路や住宅地に堆積したほか、地盤の低い地区では広範囲にわたり浸水被害を受けました。

このため、天応地区では建物の被害が597件（うち全壊86、大規模半壊54、半壊174、一部損壊165、床下浸水118）となっており、とりわけ半壊以上の被害では、市全体（1,222件）の4分の1を占める程の被害の大きさとなるなど、被災者の住宅再建を始め、被災前の住み慣れた生活圏で引き続き安心した生活を取り戻すための取組を進めていく必要があります。

また、天応地区では道路や河川などの公共土木施設に加え、地域住民のコミュニティ活動の拠点である市民センターや中学校などの公共施設、広島呉道路（クレアライン）やJR等の交通基盤など、地域の生活や経済活動を支える多くの社会基盤が甚大な被害を受けました。

さらに、天応地区で被災された方の多くは、被災前の平穏な暮らしが一変し、依然として応急仮設住宅や地区内外のみなし仮設住宅といった慣れない環境での生活を余儀なくされるとともに、天応中学校は、運動場に土石流が流入する等の被害を受けたことから運営が困難な状況になり、地区内の中学生は天応小学校への仮移転による学校生活を送っている状況となっています。

このため、これらの社会基盤の早期の機能回復を図るとともに、復旧にあわせた地区のまちづくりを地域住民と一緒に考えていく必要があります。

表－1 建物の被害の状況（令和元年9月1日時点）

被害区分	天応地区 (A)	呉市全体 (B)	割合 (A/B)
全壊	86	324	26.5%
大規模半壊	54	133	40.6%
半壊	174	765	22.7%
小計	314	1,222	25.7%
一部損壊	165	1,257	13.1%
床下浸水	118	741	15.9%
その他	0	11	0%
合計	597	3,231	18.5%

表－2 家屋等撤去の状況（令和元年8月27日時点）

区分	天応地区 (A)	呉市全体 (B)	割合 (A/B)
家屋等撤去件数	140	411	34.1%

【地区計画の方向性】

今回の豪雨により、天応地区の住民の暮らしや社会基盤等が大きな被害を受けましたが、今後も自然災害により、再び同じような被災を繰り返さないためにも、ハード・ソフトを含めた防災・減災に向けた取組を進めていくとともに、地区内人口の減少や身近な商業施設の撤退等による地域活力の低下などの課題への対応が必要です。

このため、天応地区の復旧・復興に向けた取組についての地域住民からの提案を参考に、被災する前以上に災害に強い幸せで魅力的なまちを目指し、今後、下図に掲げる取組について実施を検討し、復旧・復興に向けたまちづくりを進めていきます。



(1) 災害公営住宅の整備

取組の方向性

平成30年7月豪雨により住宅が全・半壊等の被害を受け、住み慣れた家に継続して居住することが困難になった方については、今後も住み慣れた生活圏で安全で安心して生活ができるよう、恒久的な住まいの再建に向けて支援していく必要があります。

こうした方々に一時的な住まいを確保するため、応急仮設住宅の建設、みなし仮設住宅や公営住宅等の提供などの支援を行ってきましたが、こうした一時的な住宅提供については期限があります。

このため、一時入居期間の終了後も、自力での住宅再建が困難な方のために、集会所や交流広場などのオープンスペースを備え、高潮や津波などの際にも安全に避難できる災害公営住宅を整備し、今後も安心して暮らすことができる住環境の整備に取り組んでいきます。

実施事業

➤ 災害公営住宅の整備

・災害公営住宅の整備方針

- ① 誰もが使いやすいユニバーサルデザイン
- ② 暮らしやすさ・コミュニティ形成の配慮
- ③ 各戸のプライバシーの確保
- ④ 多様な世帯に対応可能な設計
- ⑤ 周辺との景観と調和

・災害公営住宅の概要

- ① 整備戸数：50戸程度
- ② 整備場所：呉市天応大浜3丁目地内（呉ポートピアパーク第2駐車場）
- ③ 住宅の規模：入居希望者の世帯構成に応じた整備（1DK～3DK）
- ④ 完成時期：令和2年7月予定（応急仮設住宅の入居期限内の完成を目指す。）
- ⑤ 整備手法：民間事業者から住宅整備の提案を受け、事業者において設計・建設した住宅を市が災害公営住宅として買い取る手法により整備していきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期			復興期			
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
災害公営住宅の整備	検討 意向確認	整備					

復興計画における施策体系

基本方針	施策
1 住まいと暮らしの再建	1-1 被災者支援

(2) 砂防事業の推進

取組の方向性

今回の豪雨において大規模な土石流災害が発生した天応地区で地域住民が将来にわたって安全・安心に生活することができるよう、国・広島県に対して、砂防ダム等の整備を要望していきます。

また、砂防ダムの整備効果が確実に発現できるよう、定期的な点検による構造物の健全度や土砂の堆積状況の確認を行うなど、適切な維持管理について広島県に要望していきます。

実施事業

➤ 砂防ダム等の着実な整備の推進

災害後に採択された直轄砂防災害関連緊急事業等で整備される砂防ダム・遊砂地の早期完成に向けて、今後も国・広島県に対して、着実な整備の推進を要望していきます。

また、土砂災害による被害の軽減に向け、新たな砂防ダムの整備を引き続き、国・広島県に要望していきます。

➤ 砂防ダムの適切な維持管理

完成した砂防ダムについては、整備効果が確実に発現できるよう、定期的な点検による構造物の健全度や土砂の堆積状況の確認など、適切な維持管理について、広島県に要望していきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期		復興期				
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
砂防ダム等の着実な整備の推進	緊急事業等による砂防ダム・遊砂地の整備						
	新たな砂防ダムの要望・整備						
砂防ダムの適切な維持管理	砂防ダムの適切な維持管理						

復興計画における施策体系

基本方針	施策
2 災害に強い安全・安心なまちづくり	2-1 土木施設等の強靱化

(3) 浸水対策施設の整備

取組の方向性

今回の豪雨による天応地区の被害は、大屋大川、背戸ノ川からの土石流や土砂・洪水氾濫が主な原因でしたが、この両河川は河口付近にて合流しており、合流部やその上流部分などに河川断面が狭小な区間があります。また、天応宮町や天応南町など地盤が低い地区では、今回の災害だけではなく、台風の接近時などには高潮や高波による被害も発生しています。

このため、砂防ダムの整備により河川への土砂の流入を防ぐとともに、河川や水路の適切な維持管理の実施や、河川の改修、堤防の嵩上げ^{かさ}など、浸水対策施設の整備に取り組んでいきます。

実施事業

➤ 大屋大川などの河川の現状機能の確保等

現状の河川機能を最大限発揮できるよう、大屋大川などの河床掘削等を実施します。また、河川拡幅等の抜本的な改修について、検討していきます。

➤ 道路側溝や雨水排水路等の適切な維持管理と状況に応じた対策

天応宮町や天応南町などの地盤が低い地域において、道路側溝や雨水排水路等の現状の機能を最大限発揮できるよう維持管理を徹底するとともに、雨天時等の地域状況などを詳細に調査し、状況に応じた対策を実施していきます。

➤ 海岸や河川への堤防の整備や嵩上げ

大屋大川河口部周辺の堤防高が不足している区間について、広島県の海岸事業との整合性を図りながら、堤防の整備及び嵩上げについて実施していきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期			復興期				
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	
大屋大川などの河川の現状機能の確保等		河床掘削等 抜本的な改修の検討			地元協議・対策の実施			
道路側溝や雨水排水路等の適切な維持管理と状況に応じた対策	既存水路等の維持管理の徹底							
		調査・検討		状況に応じた対策の実施				
海岸や河川への堤防の整備や嵩上げ		調査・検討		状況に応じた対策の実施				

復興計画における施策体系

基本方針	施策
2 災害に強い安全・安心なまちづくり	2-1 土木施設等の強靱化
	2-3 上下水道施設の強靱化



大屋大川河口部にて整備を進めている広島県の海岸事業

(4) 地区内道路の整備

取組の方向性

天応地区は、地区内の国・県道を除いたほとんどの道路が狭あいで、車両の進入が困難なものも多く、救急活動等にも支障を来しています。

このため、地区内の狭あいな道路について、地区内の安全性や利便性の向上に向けて、地域住民との調整を基に、新たな道路の設置や拡幅を検討していきます。

実施事業

➤ 工事中道路の生活道路としての活用

背戸ノ川上流の砂防ダム工事のために整備した工事中道路を、ダム工事の完了後に、交通安全施設や街路灯等の整備を行い、地域の生活道路や避難路として活用します。

➤ 狭あいな地区内道路の拡幅

天応地区の狭あいな道路において、地域の協力により現道の拡幅が可能で、かつ、拡幅することで地区内の安全性や利便性が著しく向上する路線については、その状況に応じた手法による道路の拡幅を検討していきます。

➤ 天応宮町の道路整備

地区の現状を踏まえ、地区住民及び土地所有者と協議を行い、幅員4メートル以上の道路の整備を検討していきます。

➤ 道路拡幅等の手法に関する勉強会などの開催

道路の拡幅だけでなく地盤の嵩上げも可能となる土地区画整理事業などの事業手法については、地区の要望に応じて勉強会などを開催します。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期			復興期			
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
工事中道路の生活道路としての活用		工事中道路		市道整備			
狭あいな地区内道路の拡幅		地元調整・検討		設計・工事等			
天応宮町の道路整備		地元調整・検討		設計・工事等			
道路拡幅等の手法に関する勉強会などの開催		勉強会などの開催					

復興計画における施策体系

基本方針	施策
2 災害に強い安全・安心なまちづくり	2-1 土木施設等の強靱化



背戸ノ川上流にて整備中の砂防ダムの工事用道路

(5) 公園・広場の整備

取組の方向性

天応西条3丁目に位置する天応西条公園は、日頃から子どもたちの遊び場になるなど地域住民に親しまれた公園でしたが、背戸ノ川上流に砂防ダムを整備するために必要な工事用道路用地として使用することになりました。この工事用道路は砂防ダム完成後も市道として活用することから、代替となる公園の整備が求められています。そして、この代替公園には、今回の災害の記憶の継承や祈念の場、津波などの災害時の避難場所としての活用を求める声も上がっています。

また、広島呉道路（クリアライン）高架下に位置するチビッコ広場は、今回の災害時における拠点として有効活用できたことから、広場の前後の空地にも同様の整備を行い、広場としての機能に加えて一時避難場所としての活用を求める声が上がっています。

このため、背戸ノ川上流の工事用道路の隣接地を活用し、多様な機能を有する公園の整備に取り組みます。チビッコ広場については、今後実施される広島呉道路（クリアライン）4車線化の工事との調整を図りながら、広場前後の空地の整備・活用を検討していきます。

実施事業

➤ 背戸ノ川上流部への代替公園の整備

背戸ノ川上流の工事用道路の隣接地において、災害の記憶の継承や祈念の場、津波などからの避難場所としての機能も有する公園を整備していきます。

➤ チビッコ広場の拡張整備

チビッコ広場前後の広島呉道路（クリアライン）高架下の空地について、今後実施される広島呉道路（クリアライン）4車線化の工事スケジュールや整備される橋脚の位置等と調整を図りながら、広場の拡張整備とその利活用を検討していきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期			復興期			
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
背戸ノ川上流部への代替公園の整備		利活用の検討 設計・工事等					
チビッコ広場の拡張整備		広島呉道路(クリアライン)4車線化工事との調整 利活用の検討					

復興計画における施策体系

基本方針	施策
2 災害に強い安全・安心なまちづくり	2-1 土木施設等の強靱化
4 今後の防災・減災に向けた取組	4-1 防災・減災に向けた体制の強化

(6) 小中一貫教育校の整備（仮移転の解消）

取組の方向性

天応中学校は、今回の豪雨により、運動場に山腹から土石流が流入し、学校運営が困難な状況となっており、現在、国において、運動場を作業現場として砂防ダムの整備が進められています。

このため、天応中学校は、天応小学校に仮移転し、授業を行っていますが、体育館や特別教室を小学校と併用していることから、仮移転の解消は喫緊の課題となっています。

こうしたことから、保護者及び地域住民の意見を踏まえ、天応小学校敷地を利用した小中一貫教育校の整備を進め、今回の災害を教訓とした防災教育の推進や、災害時の避難の拠点としての利用も考慮した施設の整備に取り組んでいきます。

また、移転後の旧天応中学校について、利活用のニーズを把握し、有効活用に努めていきます。

実施事業

➤ 天応小学校敷地を利用した小中一貫教育校の整備

天応中学校と天応小学校を小中一貫教育校とし、体育館、特別教室等の建設を行います。

また、学校施設を災害時の避難拠点としても活用できるよう、施設の配置や現在計画されている国道の線形改良と連携した進入路や避難路の整備等に取り組んでいきます。

➤ 旧天応中学校の利活用

旧天応中学校は、砂防ダムの整備により一定の安全性を確保した上で、校舎や体育館、運動場など、利用が可能なものについては、地域住民や民間企業などの利活用のニーズを把握し、有効活用を検討していきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期			復興期			
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
天応小学校敷地を利用した小中一貫教育校の整備		検討	設計	建設工事			
旧天応中学校の利活用		利活用の検討					

復興計画における施策体系

基本方針	施策
2 災害に強い安全・安心なまちづくり	2-2 公共施設等の強靱化

(7) 主要地方道呉環状線（天応～焼山間）の整備

取組の方向性

呉環状線は、天応地区と焼山地区を連絡する主要な幹線道路ですが、天応～焼山間のほとんどがセンターラインのない道路であり、安全な通行のため、これまで地域住民等から2車線化を求める声が上がっていました。今回の豪雨により道路と並行する大屋大川で土石流が発生し、深山の滝入口付近の道路が被災しましたが、被災した区間はこれを機に2車線にて改良復旧されることになりました。しかし、天応地区の住宅地の区間は、道路の被災は軽微であったものの、道路線形が悪く離合が不可能な滝見橋や、道路が狭く歩道がない区間もあるなど、車両や歩行者の通行に大きな支障となっています。

このため、地域の復興に向けて、長年の課題であった呉環状線の整備について、広島県に要望していきます。

実施事業

➤ 主要地方道呉環状線の被災区間における改良復旧の推進

今回の豪雨により被災した、主要地方道呉環状線の深山の滝入口付近の区間については、2車線の規格にて改良復旧することが決定しており、今後も広島県に対して着実な改良復旧の推進を要望していきます。

➤ 主要地方道呉環状線（住宅地区間）の整備

天応地区の復興に向けて、地域の長年の課題である主要地方道呉環状線の滝見橋周辺の道路線形の改良や歩道の整備、さらには2車線化について、広島県に要望していきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期			復興期			
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
主要地方道呉環状線の被災区間における改良復旧の推進	被災区間の改良復旧						
主要地方道呉環状線(住宅地区間)の整備		整備について県へ要望					

復興計画における施策体系

基本方針	施策
2 災害に強い安全・安心なまちづくり	2-4 交通基盤の強靱化

(8) 商業施設の出店につながる支援

取組の方向性

天応地区には地域住民が日常的に利用できる商業施設（スーパーマーケット）がありましたが、平成31年2月末で閉店し、現在も後継の事業者の見通しが立たないことから、地域活力の減退や日常生活における利便性の低下が懸念される状況となっています。とりわけ、自動車などを所有していない高齢者などにとっては、身近に日用品を購入する場がなく、公共交通機関を利用した地区外での買い物や、営業日時が限られる移動販売車に頼る状況が続いています。

こうしたことから、引き続き地域と協力して民間事業者へ移動販売等の実施を働き掛けるとともに、地区内への商業施設の出店につながるよう、情報提供等の支援に取り組んでいきます。

実施事業

➤ 商業施設の出店につながる支援

天応地区における活力や利便性の向上に向け、来てくれ店舗公募事業や起業家支援プロジェクトなどの各種商業振興策を通じて、商業施設の出店につながるような支援を行っていきます。

実施事業の工程表

事業名 (年度)	復旧期		復興期				
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
商業施設の出店につながる支援			既存の商業振興策を活用した出店につながる支援				

復興計画における施策体系

基本方針	施策
3 産業・経済の復興	3-1 地域産業の復旧・復興

【復興計画における施策体系による整理】

基本方針	施策	取組
1 住まいと暮らしの 再建	1-1 被災者支援	(1) 災害公営住宅の整備
2 災害に強い安全・ 安心なまちづくり	2-1 土木施設等の強靱化	(2) 砂防事業の推進
		(3) 浸水対策施設の整備
		(4) 地区内道路の整備
		(5) 公園・広場の整備
		(6) 小中一貫教育校の整備(仮移転の解消)
2-2 公共施設等の強靱化	(6) 小中一貫教育校の整備(仮移転の解消)	
2-3 上下水道施設の強靱化	(3) 浸水対策施設の整備【再掲】	
2-4 交通基盤の強靱化	(7) 主要地方道呉環状線(天応～焼山間) の整備	
3 産業・経済の復興	3-1 地域産業の復旧・復興	(8) 商業施設の出店につながる支援
4 今後の防災・減災 に向けた取組	4-1 防災・減災に向けた体制 の強化	(5) 公園・広場の整備【再掲】